

# 放牧酪農

class

name

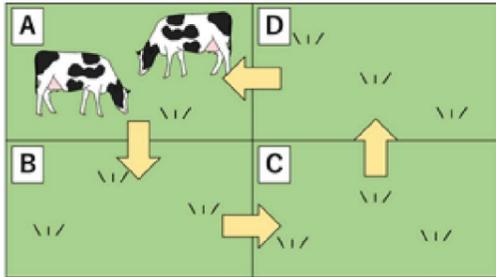


△動画視聴はコチラ

## 【解答例】

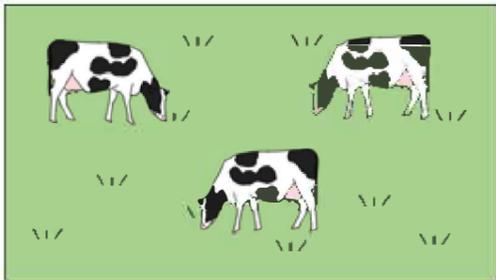
### 復習1

動画内で紹介されていた放牧の種類について、以下の文章に当てはまる言葉を入れましょう。



左図のように放牧地を電気柵などで区切り、牛を順番に移動させながら行う放牧を（ **輪換放牧** ）という。

栄養価の高い（ **短草** ）を食べることができるよう調節できる。



左図のように1つの大きな区画で放牧する方法を（ **定置放牧** ）という。

牛を移動させる手間や柵の管理が少なくすむ。  
黒毛和種の繁殖牛で使われることが多い方法である。

### 復習2

牛の消化について以下の文章に当てはまる言葉を入れましょう。

牛が体を動かすための主なエネルギー源は（ **VFA（揮発性脂肪酸）** ）という物質である。この物質は、（ **第一胃** ）の中にある1mLあたり百億から千億生息する微生物（原虫類・細菌類）が分泌する酵素によって、飼料中のでんぷんやセルロースなどの（ **炭水化物** ）を分解することで生成される。

また、飼料中のタンパク質は微生物によって分解されて、微生物の体タンパク質の合成に利用される。微生物の体タンパク質は（ **第四胃** ）や腸で消化され、（ **アミノ酸** ）として吸収されて牛の筋肉などをつくる基となる。

### Q1 uestion

動画を見て初めて知ったこと・驚いたこと・印象に残ったことを書き出してみましょう。

### D iscussion

上記で書いたことを近くの人と共有してみましょう。  
他の人の意見を聞いて新しく気づいたことがあれば書きましょう。

### Q2 uestion

舎飼いと放牧で酪農を行う場合のメリットを「労働」「牛の健康管理」「環境」の観点からそれぞれ考えてみましょう。

#### 【舎 飼 い】

- ・牛の状況を確認しやすい。
- ・栄養管理がしやすいため、牛乳の品質が安定する。
- ・温度等の環境管理が可能であり、天候の影響も受けにくい。
- ・一部の感染症の対策がしやすい。 など

#### 【 放 牧 】

- ・エサやりや糞の処理などの作業の負担が減るため、労働コストが減る。
- ・エサやりや糞の処理などの作業に機械の使用が減ることでCO2の排出が減る。
- ・牛1頭あたりの飼養面積が広がることで、運動量が増えて健康に育つことで、医療関係費が減る。
- ・自給飼料の割合が増え、エサの購入費が減る。
- ・牛舎等の設備費が少なく済む。
- ・削蹄の手間がない。 など

